

単元「情報社会の問題解決」 における生成AIを活用した 授業の実践

東京都立目黒高等学校

田中 啓太



自己紹介／近況

入都4年目（情報科教員4年目）

バドミントン部主顧問（4年目）部員数65名

写真部主顧問（1年目）部員数30名

理数研究（今年の夏は3テーマを指導）

3学年担任



東京都立目黒高等学校

規模

1学年6クラス240名

3学年で720名規模

情報 I

高校1年で2単位実施

授業

月曜と水曜が7時間（1・2年）

土曜授業（隔週）



はじめに

情報社会が急速に進展

生成AIは様々な分野で活用

生成AIと情報モラル

生成AIを扱う場合、技術の利便性とリスクを理解

適切な利用方法を身につけること

1 間違いを生成する

情報源の確認

2 根拠が分からない

情報の信頼性

3 学習していない情報是对応できない

情報源の限界

4 倫理的問題がある

著作権やプライバシー



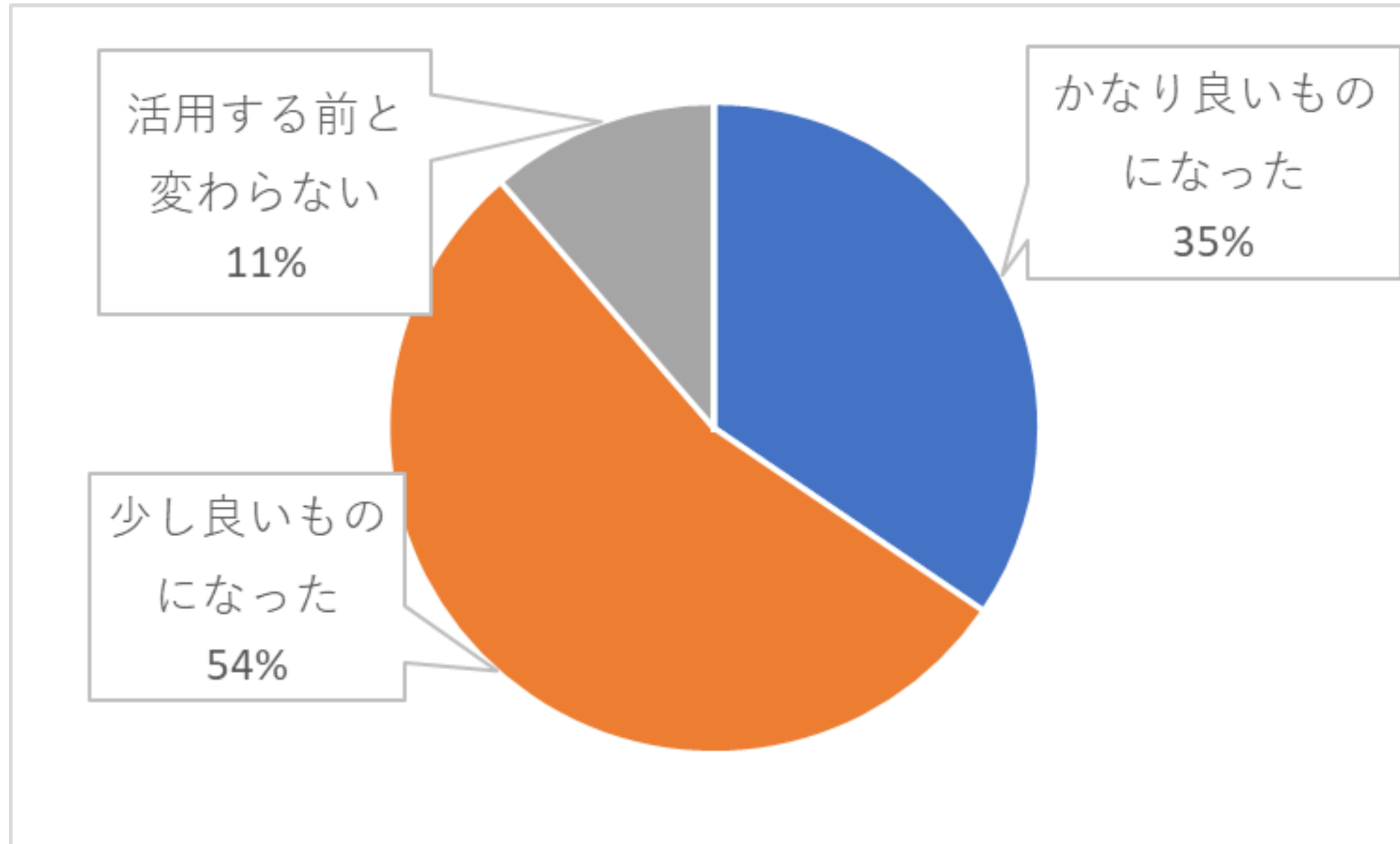
生成AIと単元「情報社会の問題解決」

授業内で取り組む課題として東京都の事業提案制度

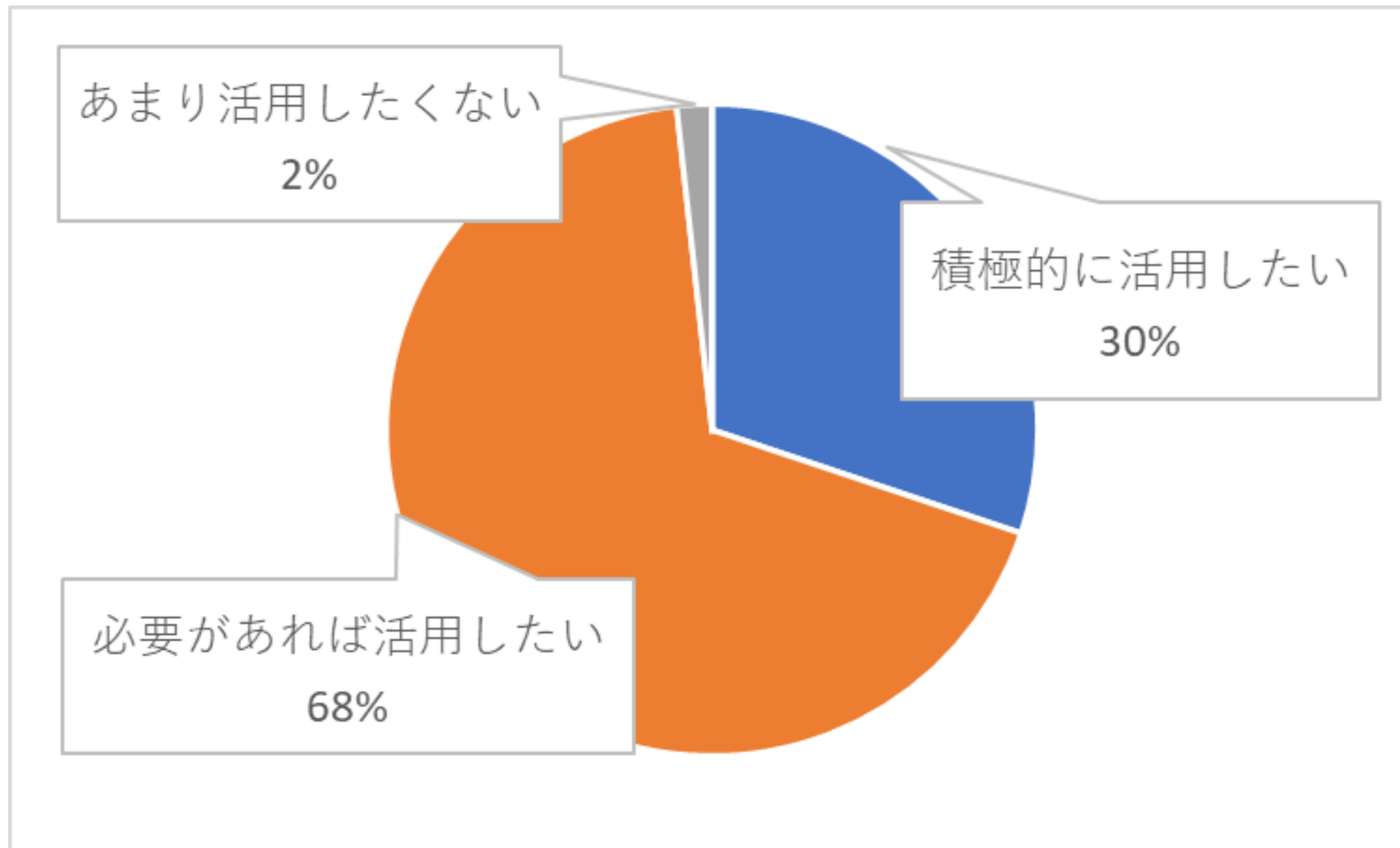
生成AIを活用した取り組み

- 1 問題の明確化
情報の収集
- 2 解決策の立案（1）
ブレインストーミング
- 3 解決策の立案（2）
生成AIの活用
- 4 事業提案のまとめ
事業提案の応募





「生成 A I を使って、事業提案の解決策はより良いものになりましたか？」
アンケート結果



「これからも生成A I を活用していききたいですか？」アンケート結果

今後の授業の展望

音声入力の生成AIを扱えるようになったら

人だけでなく生成AIも交えたブレインストーミング



1

議論の深化

生成AIが意見をまとめる

2

意見の便乗

生徒の意見を引き出す

おわりに

誰もが人工知能を扱うことができるようになった世の中

情報科の教員として何を生徒に伝えるのか考える機会

光の部分

新しい技術を受け入れ，活用

影の部分

情報モラルなどの課題

参考文献

初等中等教育段階における生成AIの利用に関する
暫定的なガイドライン
文部科学省初等中等教育局

生成AI教育ガイド 大阪大学

Copilot Microsoft

